

マシン油乳剤

トモノール[®]S

サビダニ類・カイガラムシ類・
チャトゲコナジラミの防除に!

薬剤抵抗性
ハダニ類対策に!



ナミハダニ



ミカンハダニ



リンゴハダニ



カンザワハダニ*



ヤノネカイガラムシ



チャノナガサビダニ



クワシロカイガラムシ



チャトゲコナジラミ



特長

- 高級潤滑油を原料に開発した高度精製マシン油です。
- 薬剤抵抗性ハダニ類にも安定した高い効果があります。
- チャノナガサビダニ・カイガラムシ類等の同時防除が可能です。
- チャトゲコナジラミの全生育ステージに効果があります。
- 計量が容易なシースルー缶になって使い易くなりました。

※写真提供:HP埼玉の農作物病害虫写真集

残量が
ひとめで分かる
シースルー缶



®はOATアグリオ(株)の登録商標

適用病害虫及び使用方法

平成29年2月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マシン油を含む農薬の総使用回数		
かんきつ	カイガラムシ類 ハダニ類	60~80倍	200~700ℓ /10a	12~3月	—	散布	—		
	ハダニ類	100~200倍		4~5月					
	ヤノネカイガラムシ幼虫 ハダニ類			夏期					
りんご	ハダニ類	25倍		発芽前					
		50倍		芽出直前直後					
		100倍		展葉期 (発芽後2週間まで)					
		200倍		展葉期 (発芽後3週間まで)					
なし	カイガラムシ類 ハダニ類 カイガラムシ類	25~50倍		8~9月				発芽前	
もも ネクタリン	カイガラムシ類 ハダニ類及び越冬卵								
かき	カイガラムシ類	50倍							発芽2週間まで
おうとう		25~50倍							
うめ		100倍							
		25~50倍							
すもも		20~50倍							
小粒核果類 (うめ、すももを除く)		50倍	発芽前						
キウイフルーツ		30倍							
びわ		100倍							
きゅうり		うどんこ病 ハダニ類	200倍		100~300ℓ /10a	—			
いちご すいか なす		ハダニ類	100~150倍						
茶		クワシロカイガラムシ	50~100倍	1,000ℓ /10a	5~9月				
		チャトゲコナジラミ	100~150倍	200~400ℓ /10a	10~3月				
	50~100倍		5~9月						
	カンザワハダニ チャノナガサビダニ	100~150倍	10~3月						
		50~150倍	5~9月						
クワシロカイガラムシ	30倍	10~3月							
桑	クワシロカイガラムシ 若齢幼虫	50~60倍	50~200ℓ /10a	12~3月					
				5~11月					

適用農薬名 ベノミル剤 作物名 なし 使用方法 本剤でベノミル剤を20倍に希釈し、塗布する

▲ 使用上の注意事項

- 散布の際はマスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり、多量に浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足などの皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 高温時の散布では薬害を生じやすいので、散布は日中を避け、朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で行ってください。
- 散布直後の降雨は、効果が低下するので、特に冬期散布においては、好天の続くときに使用してください。
- 調製した薬液は速やかに散布してください。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN剤などの水和剤及び銅剤との混用は避けてください。
- かんきつに使用する場合は下記の事項に注意してください。
 - ① 散布後、葉(特に旧葉)に油浸斑を生じることがありますが日数の経過に従って、消失し、落葉を助長することはありません。ただし、かんばつ等で樹勢が弱っている場合には散布しないでください。
 - ② ジチアノン剤との近接散布は果実に薬害を生じる危険があるので避けてください。
 - ③ 3月に使用する時は、なるべく早めに散布してください。この場合、石灰硫黄合剤の散布は避けてください。
 - ④ ジメトエート剤との混用は、ヤノネカイガラムシ第1世代防除時期には、樹勢により落葉を助長することがあるので避けてください。
 - ⑤ 4~5月の使用は、12~3月にマシン油乳剤等の使用されない場合のミカンハダニの防除に使用してください。
- 茶の5~9月の使用は、摘採直後の幼虫発生期に行ない、摘採前4週間は使用しないでください。
- 桑に使用する場合は、発芽後の散布は薬害を生じるので、冬期又は夏切直後に使用してください。
- クワシロカイガラムシ対象の場合は、散布量を十分にし、樹幹がよくぬれるように散布してください。特に茶は株元に十分かかるように散布してください。
- りんごに使用する場合、芽出し直後の散布は時期を失ないようにしてください。遅れて散布すると、葉の周囲が褐変することがあるので、使用濃度に注意してください。

- 果菜類に使用する場合は下記の事項を守ってください。
 - ① 幼苗期の散布は薬害を生じるおそれがあるので避けてください。また、連続散布する場合の散布間隔は7日以上あけるとともに、過度の連用は避けてください。
 - ② 収穫間際に散布すると、果実にオイル光を生じることがあるので留意してください。
 - ③ ハダニ類に対しては速効性が不十分であり、また、1回散布では効果が不十分ですので、なるべく発生初期に7~10日間隔でくり返し散布してください。
 - ④ うどんこ病に対しては、病害の発生前~発生初期から7~10日間隔でくり返し散布してください。発病後の1回散布では十分な効果は得られないので注意してください。
 - ⑤ いちごに使用する場合、急激な気温上昇時は、かく焼けを助長するので使用を避けてください。また、軟弱苗や異常高温時は薬害を助長するので使用を避けてください。他剤との混用及び近接散布は薬害が生じ易くなるおそれがあるので、避けてください。
 - ⑥ すいかに使用する場合、着果後の散布は果実の外観を悪くすることがあるので、所定濃度範囲の低濃度で使用するか、なるべく果実にかからないように散布してください。
- すももに使用する場合は、高濃度の散布は薬害を生じるおそれがあるので所定濃度で使用してください。
- 自動車などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意してください。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないよう調製を行ない、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意してください。
- 保管…火気を避け、食品と区別して、直射日光が当たらない低温で子供の手の届かない場所に密栓して保管してください。

※ 農業用マルチに散布液がかかると変形するおそれがあるので散布液がかからないよう注意してください。

■ 使用前にはラベルをよく読んでください ■ ラベルの記載以外には使用しないでください。 ■ 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ■ 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。 ■ 防除日誌を記帳しましょう。

● 取り扱い

OAT アグリオ株式会社
 http://www.oat-agrio.co.jp/
 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1

コールセンター： ☎ 0120-210-928 (9:00~12:00, 13:00~17:00) 土・日・祝日をのぞく